

政策分析シート（平成28年度）

政策名	良好で快適な生活環境の形成	政策No	08	部名	防災都市づくり部		
関連部名				部長名	松土	内線 2800	
行政評価事業体系	分野	IV 環境先進都市					
目的	住みたい、いつまでも住み続けたい街の実現を目指して、花と緑あふれ、うるおいと安らぎの場を区民に提供し、安全で快適な生活環境の充実に取り組むとともに、細街路の拡幅や道路の適正な維持管理、自転車の放置対策等を進め、良好な住環境の維持・向上を図る。						
指標	幸福実感指標名 (5段階評価)	指標の推移			指標に関する質問文		
		25年度	26年度	27年度			
	① 生活環境の充実	3.21	3.13	3.19	お住まいの地域が、バリアフリーの状況や交通の便、まちなみの良さ、快適さ等の点から総合して暮らしやすい生活環境であると感じますか？		
	② まちなみの良さ	2.87	2.90	2.96	お住まいの地域のまちなみ（景観・緑など）は良いと感じますか？		
	③ 周辺環境の快適さ	2.97	2.97	3.05	お住まいの地域で、生活する上での不快さを感じますか？		
	④						
	⑤						
	⑥						
指標	政策の成果とする指標名	指標の推移				指標に関する説明	
		25年度	26年度	27年度	28年度 見込み		目標値 (28年度)
	① 区面積に対する公園・児童遊園面積の割合（％）	4.19	4.21	4.22	4.26	4.65	区面積10.16km ² （25年度10.20km ² ）
	② 都電沿線バラの株数（株）	13,410	13,440	13,440	13,490	15,000	植栽株数（約）
	③ 細街路後退用地整備率（％）	38	39	40	41	41	整備延長／整備対象道路延長両側（自主整備含む）
	④ 放置自転車台数（台）	873	840	795	750	750	放置台数（午後の定点観測値）
	⑤ 駐輪可能台数（台）	10,348	10,507	10,706	10,800	10,800	民間含む
	⑥						
⑦							
現状と課題 (指標分析)	<ul style="list-style-type: none"> ● 「花と緑の基本計画」において平成40年度までの整備目標としている55.2haの公園等面積を確保するためには、今後12.3haの公園等を整備していく必要がある。 ● 都電沿線のバラの植栽は、荒川区の観光資源として定着しつつあり、美しい景観の創出やうるおいと安らぎの場の提供として充実させることが重要である。 ● 区民に最も身近な都市施設である道路をいつまでも安全かつ安心して利用できるよう、適正な維持管理及び拡幅・改修等の整備を行う必要がある。 ● 駅前の放置自転車については、減少傾向がみられるところであるが、歩行者の安全や緊急車両の円滑な通行の確保、街の美観の向上の観点からも取組の強化が求められる。 						
今後の方向性	<p>《今までの成果及び指標分析を踏まえて》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 荒川区を災害に強く、景観的にも魅力があり、うるおいと安らぎが感じられる街にしていくことが重要である。このため、基本構想に定める6つの都市像のうちの一つである環境先進都市の実現に向け、良好で快適な生活環境の形成を図るため、公園や道路の整備等に積極的に取り組む。 ● 「花と緑の基本計画」や「住宅マスタープラン」等の各種計画に基づき着実に事業を展開するとともに、都電沿線のバラの充実など、観光の面からも景観に優れたまちづくりを進める。 ● 道路ストック総点検の成果を踏まえ、予防保全型の維持管理手法の検討を進めるとともに、バリアフリーへの対応や、細街路整備等を進める。 ● 引き続き、今後の放置自転車対策として、駐車場の設置、放置自転車の撤去などのハード面の取り組みに加え、マナーの啓発などのソフト面の取り組みを進める。 						

政策を構成する施策の分類

施策名	政策推進のための分類		分類についての説明・意見等
	28年度設定	29年度設定	
緑とうるおい豊かな生活環境づくり	重点的に推進	重点的に推進	花と緑があふれる、快適な、かつ愛着のわく街を創出していく必要がある。 また、街の防災性向上のためにも、目標とする公園等の面積確保に向けて、積極的に取組む必要がある。
快適な住環境の形成	推進	推進	良好な住環境と良質な住宅を確保し、快適に暮らせる街づくりを推進する。
快適な生活道路の整備	推進	推進	環境に配慮した道路の整備、バリアフリーに対応した道路施設の整備を進めるとともに適正な維持管理を行っていく。
放置自転車対策の推進	推進	重点的に推進	地域ごとに異なる課題等を的確に捉えた上で、効果的な放置自転車対策を進めていく。